

平成17年度 第33回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第36回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 最終日:平成17年11月6日(日)
 会場:大垣市総合体育館

男子の部

< 審判 >

準決勝 岐阜総合 111 $\left[\begin{array}{l} 35 - 12 \\ 26 - 12 \\ 24 - 20 \\ 26 - 12 \end{array} \right]$ 56 高山西 大野貴司・後藤慎二

岐阜総合はハーフコートゾーン、高山西はマンツーマンでスタートする。岐阜総合は、ゾーンディフェンスを2-3、3-2、1-3-1と変化させ相手のターンオーバーを誘って、得意のアーリーオフエンスから 杉本、新川、赤座らが次々と得点を重ねる。

第2ピリオド、岐阜総合は早くもベンチメンバーを投入するが、大山を中心としたオフェンスでさらにリードを広げる。高山西も 新井のパスから流れをつかもうとするが、攻撃が単調になり追い上げられない。前半で岐阜総合が61-24と大量リードを奪い、完全に主導権を握る。

第3ピリオド、高山西はオールコートディフェンスから試合のリズムをつかみ、佐藤の3点シュートなどで得点を伸ばし始める。

しかし、第4ピリオドに入っても走力の落ちない岐阜総合は、途中出場の選手も次々とシュートを決める。結局、岐阜総合が111-56の大差で高山西を下し、3年連続のウィンターカップ出場を目指して決勝へと進んだ。(村田竜一)

準決勝 美濃加茂 68 $\left[\begin{array}{l} 13 - 11 \\ 10 - 12 \\ 22 - 18 \\ 23 - 18 \end{array} \right]$ 59 中津川工 小牧秀則・棚橋英一

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。開始当初は互いにシュートが決まらないものの、美濃加茂は 松葉のドライブ、桂川の3点シュート、伊藤のリバウンドシュートで先行する。中津川工も 所の速攻や3点シュートなどの活躍で食いついていく。

第2ピリオド、美濃加茂は中津川工 所をフェイスガードで封じて、攻めては 松葉、熊澤の3点シュートで得点を伸ばす。中津川工も 土井のミドルシュートやポストプレー、伊藤の3点シュートで追い上げ、23-23の同点で折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂はシューターの 安藤を投入し、期待通りに2本の3点シュートを決めて先行する。中津川工も 所、伊藤、田口が要所で3点シュートを決め、譲らない。残り4分から美濃加茂は 熊澤のミドルシュートや3点シュート、桂川の速攻でリードを奪い、45-41として最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、美濃加茂はディフェンスのプレッシャーを強め、安藤の2本の3点シュート、松葉のスティールからの速攻などで、4分には59-44と15点差をつける。その後は 熊澤が落ち着いてボールをコントロールし、相手の反撃をかわして68-59で逃げ切り、決勝へ駒を進めた。(杉山広之)

決勝	美濃加茂	79	$\begin{bmatrix} 12 - 20 \\ 27 - 10 \\ 24 - 22 \\ 16 - 26 \end{bmatrix}$	78	岐阜総合	増田博徳・松野瑞穂
----	------	----	--	----	------	-----------

積極的にゴール下に飛び込む美濃加茂と、それを速攻で追いかける岐阜総合の試合は、第3ピリオドを終えて63-52と、美濃加茂が11点リードした。

第4ピリオド、勝ちを意識した美濃加茂はプレーが消極的になり、全員が速攻に走った岐阜総合が激しく追い上げる。75-73と美濃加茂リードで迎えた残り1分、岐阜総合は 杉本がドライブインとカウントワンスローを決め、逆に1点リード。さらにファウルからフリースローを得た岐阜総合 新川がフリースロー2本を決め3点差。誰もが勝負あったと思われた残り14秒、美濃加茂 桂川が必死に放った3点シュートがリングネットに沈むと同時に、ファウルの笛と終了の合図。同点の場面から 桂川がフリースローを落ち着いて決め、ついに美濃加茂が勝利を勝ち取った。最後まであきらめず自分たちの力を信じて戦った美濃加茂が、悲願の初優勝と全国大会初出場を成し遂げた。(山田祐治)

女子の部

< 審判 >

準決勝	岐阜女子	135	$\begin{bmatrix} 39 - 11 \\ 35 - 10 \\ 31 - 10 \\ 30 - 14 \end{bmatrix}$	45	関商工	山田祐治・早野宏樹
-----	------	-----	--	----	-----	-----------

U-18日本代表候補選手の 富崎、田中を擁する岐阜女子は、出だしから激しいオールコートマンツーマンディフェンスで相手のミスを誘い、服部、富崎の正確なシュートで次々と得点を重ね、リードを広げる。ベンチメンバーに交代してもディフェンスの激しさは変わらず、前半で74-21と大差をつけて勝負を決定づけた。

後半に入っても岐阜女子の勢いは衰えず、スピード、高さ、パワーで相手を圧倒して、順当に決勝へと駒を進めた。関商工も 酒向を中心に必死にディフェンスを頑張ったが、及ばなかった。(宮崎泰彦)

準決勝	県岐阜商	101	$\begin{bmatrix} 30 - 23 \\ 25 - 17 \\ 16 - 23 \\ 30 - 14 \end{bmatrix}$	77	岐阜総合	西尾 司・田中昭博
-----	------	-----	--	----	------	-----------

県岐阜商は、序盤から堅いディフェンスでボールを奪うと、小野島、長瀬が速攻に走り、柴田の高さを活かしたポストプレーで着実に得点をあげていく。対する岐阜総合はハーフコート1-2-1-1ゾーンでインサイドを守り、攻めては 渡部の4本の3点シュートを含む20得点の活躍で食い下がる。

第2ピリオドに入っても、県岐阜商は 小野島の速攻や3点シュート、柴田のインサイドプレーで得点をあげ、随所でオールコートゾーンを仕掛け次第に点差を広げていく。岐阜総合も渡部の3点シュート、ドライブインで粘りを見せるが、差を縮めるまでに至らない。前半は55-40と県岐阜商がリードして折り返す。

第3ピリオド、県岐阜商が 柴田、高橋を一旦ベンチに下げると流れは一変する。岐阜総合はパスの回りが良くなり、渡部、宮崎、角野らの3点シュートが6連続で決まり、一時は2点差まで詰める。しかし、岐阜総合はオフェンスの軸となる 杉山、渡部、大塚が相次いで4ファウルとなりベンチに下がると、県岐阜商はオールコートディフェンスからリズムを取り戻し、71-63と8点リードで最終ピリオドへ。

第4ピリオド、岐阜総合はスタートメンバーに戻し必死に追い上げを図るが、杉山、渡部が5ファウルで退場となり、攻め手を欠いて得点を伸ばせない。逆に県岐阜商は 長瀬の速いパスとドリブルワークで次々にシュートを決め、一気に勝敗を決する。結局、県岐阜商が高さ、速さで上回り、101-77で岐阜総合を下して、選抜大会では2年連続で決勝に進んだ。(長屋 貴)

決勝 岐阜女子 84 $\left[\begin{array}{l} 20 - 14 \\ 22 - 12 \\ 22 - 5 \\ 20 - 27 \end{array} \right]$ 58 県岐阜商 室谷伸治・大江裕之

両チームとも激しいディフェンスでロースコアの出だしとなった。岐阜女子は 王の高さを活かした攻撃で得点し、県岐阜商も 柴田を中心に反撃する。20-14と岐阜女子が一步リードして第1ピリオドを終了。

第2ピリオド、流れをつかめず思うようにシュートの決まらない岐阜女子に対し、県岐阜商はリバウンド、スティールから 小野島の速攻を起点にして追い上げを図る。岐阜女子 田中、県岐阜商 柴田のU-18日本代表候補同士の頑張りで、お互いに譲らぬ展開となった。しかし岐阜女子はディフェンスの頑張りから相手のミスを誘い、小野、田中のシュートで次第にリードを広げ、42-26として前半を折り返す。

第3ピリオド、岐阜女子がディフェンスの頑張りで容易に相手のシュートを許さず、攻めては田中のインサイドプレーやリバウンドシュートを中心に得点して、さらにリードを広げる。

第4ピリオドに入っても両チームとも集中力を欠くことなくディフェンスを頑張るが、岐阜女子は服部の3点シュートなどで着実に得点し、相手の追い上げを許さない。結局、岐阜女子がインターハイ3位の実力を見せ84-58で勝利し、14年連続15回目のウィンターカップ出場を決めた。県岐阜商も、柴田、長瀬らを中心に健闘した見応えのあるゲームであった。(下畑耕一)